

H30 新幹線を活かしたまちづくり構想策定に係る調査

1) 移住・定住の促進

(ア) 小浜市の強みと弱みの整理

- ・沿線大都市住民の意向把握
- ・過年度に実施した住民アンケートの整理

移住・定住面における小浜市の強み・弱みの整理

・本年度実施した大都市住民に対するWEBアンケート調査結果および既存の市民アンケート調査より、移住・定住面に関する小浜市の強み・弱みに関する回答結果を整理する。

	強み	弱み
大都市住民アンケート (京都、大阪、滋賀) ※過去5年に2回以上小浜市への来訪経験を有する。 ・WEBモニターアンケート (2019.2)回収数524	<ul style="list-style-type: none"> ○小浜市のイメージとして、「美しい自然、海と緑」、「新鮮な海産物や伝統の味」に特化。 ○近隣の大都市圏である「京都」「大阪」の住民の約半数(5割弱)は、小浜市を移住/2地域居住先として、検討候補になり得る。 ○「スローライフを実現」、「食べ物や水・空気が美味しい」が、小浜市を移住/2地域居住先として関心を抱く理由の上位に位置する。 ○一般的な移住/2地域居住の条件として、「仕事がある」以外に、「海が見える自然環境」を上げる回答が1割以上存在。 	<ul style="list-style-type: none"> * 一般的な居住地の選択要因として、「仕事がある(自分のスキル、経験を活かせる)(正規雇用)」ことを条件とする割合が高い。 ○小浜市への移住/2地域居住に対する不安として「働き口の確保・給料が下がる可能性」を挙げる声が多く、半数弱存在。 ○小浜市への移住/2地域居住に対する不安として、「日常生活の利便性」、「移住先の人間関係」を挙げる回答割合が高い傾向。
既存調査結果総括 (既存アンケート調査、小浜市総合戦略における人口抑制に向けた課題) ・小浜市民アンケート、市内学生アンケート、転入者/転出者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ○小浜市民の誇り、市外からみた小浜市の良いところとして、“海”、“海産物”、“食”、“自然環境”が共通のキーワードとして頻出。 ○その他、歴史、文化、伝統という、古代より栄えた小浜市ならではの環境(財産)が掛け合わせり、小浜市の魅力を形成。 ○住民の人情、治安がよい、教育環境がよい、など、“人”の良さを感じられる状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内生活において交通面の不便さが、小浜市の弱みとして上位。 ○転出の大きなタイミングとなる就職において、希望する職種、企業がない、企業の新規進出が乏しいとの回答が目立つ。 [就職先の不足、学んだ技術・知識を発揮できる産業の不足、求人と求職の職種のギャップが大きい、新卒採用の減少 等] ○日常生活の不便さを挙げる回答も多い。 ○交通面のほか、中心市街地の低迷、経済活力の活性化の必要性を挙げる声が多い。 ○女性にとっての住みやすさに配慮する必要がある。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○小浜市に対するイメージとして、市民が誇りに思う内容と大都市圏の住民がイメージする内容は一致。(海、自然、海産物、食) ○今後、北陸新幹線の全線開通により、大幅なアクセス向上が見込まれる近隣大都市圏住民(京都、大阪)にとって、小浜市は、移住先/2地域居住先の検討候補としてのポテンシャルを有する。 ⇒スローライフの実現、食べ物や水・空気が美味しいという、移住/2地域居住に求める大都市住民の欲求に応じられる、小浜市の魅力資源の磨き上げや、小浜市出身者以外へも広く魅力資源の広報PRが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民および大都市住民が認識する小浜市の弱みとして、「交通の不便さ」、「日常生活の不便さ」を挙げる割合が高い。 ○大都市住民の一般的な居住地の選択要因は「仕事がある」ことが主たる条件となるが、小浜市への移住/2地域居住への不安として、働き口の確保・給料が下がる可能性を懸念する声が多い。 ⇒中心市街地をはじめ、経済活力みなぎる小浜市の実現に向けて、交通利便性の向上、就業機会の拡充、多様な働き方の実現を可能とする環境づくりなどが重要な取り組み課題。 ⇒「元気な小浜の姿」を市内外が認識できる、住民が主体となった積極的な活動を促す支援が重要。

[参考]生活・居住面に関する大都市住民の意識

・本年度実施した大都市住民に対するWEBアンケート調査結果より、移住や2地域居住に関する意識調査結果の概要をまとめる。

	結果概要
<p>大都市住民 (京都、大阪、滋賀)</p> <p>※過去5年に2回以上小浜市への来訪経験を有する方を対象。 ・WEBモニターアンケート(2019.2)回収数524</p>	<p>○小浜市の印象は、「美しい自然・緑と海」が最も高く(78.6%)、「新鮮な海産物や伝統の味」も半数以上(56.7%)が選択。</p> <p>○地方(小浜市に限らず)への「移住や2地域居住」への関心は、半数以上(53.4%)が関心あり。(30代の関心が高い66.3%)</p> <p>○小浜市を移住/2地域居住先として関心を持っている層は、42.1%(半数弱)。(隣接する京都府の関心層は47.6%とやや高い。)</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スローライフを実現したい(23.6%)、食べ物や水・空気が美味しい(25.4%) ・年齢別には、50代は出身地(近い)とする回答が高くUターン思考が顕著(21.4%)。 ・60代以上は趣味を楽しみたいとする回答も上位(31.3%)。食べ物や水・空気が美味しい、は同率。 <p>○居住地の選択要因として重視する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仕事がある(自分のスキル、経験を活かせる仕事)」が最も高く(27.1%)、「仕事がある(正規雇用)」も比較的高い(22.5%)。 ・仕事面以外では、自然環境が豊か(海が見える)の回答が高い(11.8%)。 <p>年齢別の傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20代は、全体傾向と類似であるが、仕事がある「自分のスキル、経験を活かせる」や「正規雇用」への回答の集中が顕著(41.7%、29.2%)。 ・30代は、全体傾向と類似。仕事がある「自分のスキル、経験を活かせる」(37.3%)や「正規雇用」(23.7%)が上位。 ・40代は、仕事がある「正規雇用」(31.6%)が「自分のスキル、経験を活かせる」(24.1%)を逆転。 ・50代は、仕事がある、への回答が多様化。「自分のスキル、経験を活かせる」(23.2%)、「正規雇用」(18.8%)、「趣味を仕事にできる環境」(13.0%)。 ・60代以上は、自然環境が豊か(海が見える)の回答割合が突出(24.5%)、第2位は仕事がある(自分のスキル、経験を活かせる)(18.4%)。 <p>○小浜市への移住/2地域居住に対する不安として、「働き口の確保・給料が下がる可能性」が最も高く(44.9%)、「日常生活の利便性」(34.7%)、「移住先の間人間関係」(33.1%)と続く。</p> <p>年齢別の傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40代(第1位は日常生活の利便性)、60代以上(第1位は公共交通の利便性、第2位は日常生活の利便性)と、働き口の確保・給料が下がる可能性、ではない回答が第1位。 ・都会からの交通アクセス、の回答が30%以上と比較的関心が高い年齢層は、30代、50代。 ・移住先の間人間関係の回答が30%以上と比較的関心が高い年齢層は、40代、50代。

[参考]生活・居住面に関する小浜市の強み・弱みの整理(既存調査)

・既存調査(アンケート調査等)より、生活・居住面における小浜市の強み・弱みに関する回答結果を通じて、就業面に関する諸課題を抽出する。

既存調査等	強み	弱み
小浜市民 <small>※市民アンケート調査(2015年1~2月実施)回収数998</small>	<p>○住みよい、とする回答(66.3%)が前回調査より改善(+1.3%)</p> <p>【満足が高い項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上水道、下水道の整備 ・健康づくり支援(検診、感染予防等) ・その他(道路網の整備、ゴミの減量化・資源化の推進、食のまちづくりの推進は満足率4割以上) <p>○市外に誇る小浜市の特徴は、海・海産物、自然・緑が過半数以上、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な海産物や伝統の味(71.5%)、美しい自然/緑と海(64.8%)、豊かな歴史/文化財(46.2%)、住んでいる人の人情/気風が豊かなところ(24%)、郷土色豊かな祭り/伝統芸能(13.7%)、郷土色豊かな民芸品/工芸品(12.0%) 	<p>○住みにくい、とする回答(15.0%)が前回調査より悪化(+1.2%)</p> <p>○女性にとって、住みにくいとする回答(14.6%)、について前回調査より悪化の程度が高い(+2.3%)。</p> <p>【不満が高い項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の整備 ・中心市街地の活性化 ・医療体制の整備(小浜病院の体制、休日診療等) ・産業の振興、企業誘致の推進 <p>(その他、防災環境の整備、防犯対策の推進、労働環境の整備は不満足率4割以上)</p>
市内学生 <small>(次代を担う若い世代)</small> <small>※高校生・専門学生・大学生アンケート(2015年6月)回収数:643</small>	<p>○卒業後、小浜市に住みたいが13.1%(小浜市出身者では28.0%)(一定数は住みたいという回答あり。)</p> <p>【住みたい理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛着がある(50.0%)、住むのみ快適な環境(39.3%)、希望する仕事がある(31.0%)、実家・家業がある(26.2%)が上位。 	<p>○卒業後、小浜市に住みたくないが46.2%(小浜市出身者では32.2%)</p> <p>【住みたくない理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望する仕事がない(45.8%)、小浜市の生活が不便(36.5%)、地元(小浜市以外)に愛着がある(31.6%)が上位。
市外の視点 <small>(転入者、転出者)</small> <small>※転入・転出者アンケート(2015年3月~4月)回収数:87(入52、出35)</small>	<p>【転入者が小浜市を居住地として選択した理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境がよい(19.6%)、・家族が住んでいる(19.6%)、親、子の家が近い、同居する(15.2%)、知人、友人がいる(10.9%)、食べ物がおいしい(8.7%)、買い物が便利(8.7%)、出身地だから(8.7%) <p>【転出者がまた住みたいと思う理由(10名回答)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境がよい(60.0%)、出身地である(50.0%)、家族が住んでいる(50.0%)、持家がある(40.0%)、教育環境が良い(30.0%)、食べ物がおいしい(30.0%)、治安がよい(30.0%)、人が優しい(30.0%) 	<p>【小浜市に戻る予定がないとする転出者の理由(8名回答)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い(50%) <p>(以下は、それぞれ回答数1:大規模ショッピングセンターや娯楽施設がない、通勤通学が不便、就職先がない、活気がない)</p>
まとめ <small>(既存アンケート調査)</small>	<p>○小浜市民の誇り、市外からみた小浜市の良いところとして、“海”、“海産物”、“食”、“自然環境”が共通のキーワードとして頻出。</p> <p>○その他、歴史、文化、伝統という、古代より栄えた小浜市ならではの環境(財産)が掛け合わせり、小浜市の魅力を形成。</p> <p>○住民の人情、治安がよい、教育環境がよい、など、“人”の良さが感じられる状況。</p>	<p>○市内生活において交通面の不便さが、小浜市の弱みとして上位。</p> <p>○転出の大きなタイミングとなる就職において、希望する職種、企業がない、企業の新規進出が乏しいとの回答が目立つ。</p> <p>○日常生活の不便さを挙げる回答も多い。</p> <p>○交通面のほか、中心市街地の低迷、経済活力の活性化の必要性を挙げる声が多い。</p> <p>○女性にとっての住みやすさに配慮する必要がある。</p>

(1)可能性検討

1)移住・定住の促進

(イ)世帯収入・生活コストの比較

世帯収入・生活コストの比較

・生活面に係る収入・コスト水準について、小浜市、大都市(京都・大阪)、全国を比較するため、下表に示す統計データ等を用いた整理・分析を行った。

■分析指標一覧

区分		着目データ・指標等		データ・情報の出典等
収入	所得	(1)	納税義務者1人あたり課税対象所得額	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村単位の指標。 ・総務省「市町村課税状況等の調」
生活 コスト	総合	(2)	1ヶ月あたり家計支出額に基づく消費行動指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県内経済圏別の1世帯当たり1ヶ月間の支出額に基づく消費行動、貯蓄行動等の傾向を指標で把握。 ・総務省「平成26年全国消費実態調査(地域編)」 ・項目は家計調査の項目に近い。
		住居	(3)	1住宅当たり延べ床面積(m ²)
	(4)		持ち家割合	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村単位の指標。(居住世帯あり住宅数、持ち家数より算出) ・総務省「住宅・土地統計調査(2013年)」
	(5)		不動産取引価格(宅地)	<ul style="list-style-type: none"> ・場所、期間、用途の条件などで抽出した面積あたりの土地取引価格の地域別平均値を算出して比較。 ・国土交通省「不動産取引価格情報」(2013年～2017年の小浜市の取引件数: 1,310件)
	生活・娯楽	(6)	物価水準の差 【消費者物価地域差指数(10大費目)】	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県単位の指標。 ・10大費目(食料、住居、光熱・水道、家具・家事用品、被服及び履物、保険医療、交通・通信、教育、教養娯楽、諸雑費) ・総務省「小売物価統計調査(構造編)調査結果」
(7)		人口1万人当たり病院数・医師数	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村単位の指標。 ・厚生労働省「医療施設調査」 等 	

収入－所得

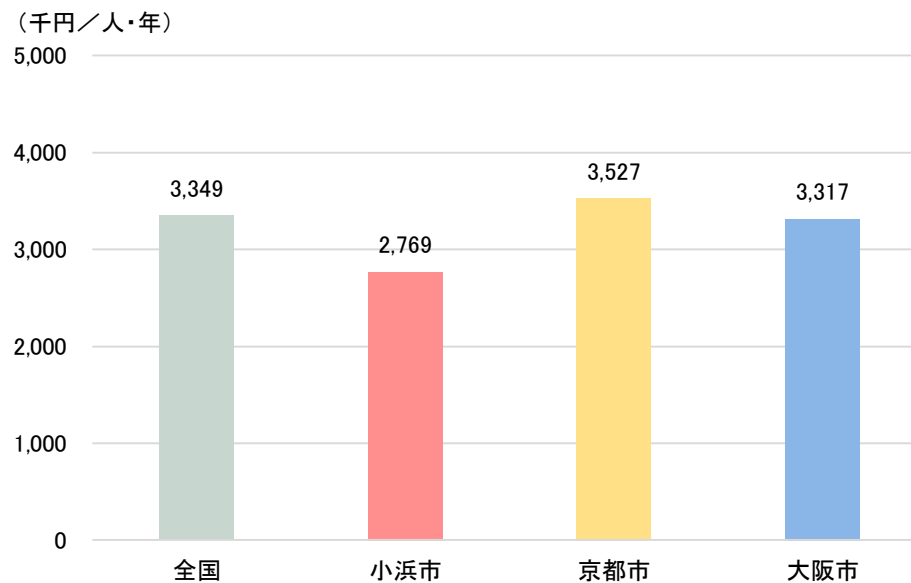
● 納税義務者1人あたり課税対象所得額

✓ 小浜市の納税義務者1人あたりの課税対象所得額は、全国平均や近隣の大都市(京都市、大阪市)と比較して、2割程度低い水準。

(1) 納税義務者1人あたり課税対象所得額

	納税義務1人あたり 課税対象所得額の水準 (全国平均を1)	納税義務1人あたり課税対象所 得額(千円/人・年)
全国	1.00	3,349
小浜市	0.83	2,769
京都市	1.05	3,527
大阪市	0.99	3,317

(出典)総務省「平成29年度市町村税課税状況等の調」



(出典)総務省「平成29年度市町村税課税状況等の調」

生活コストー総合

● 1ヶ月あたり家計支出額に基づく消費行動指標

- ✓ 小浜市を含む福井県経済圏Dの可処分所得に対する消費支出割合(平均消費性向)は、77.2%と、大都市沿線の大阪市と比較すると低いが、京都市や全国平均をやや上回る水準である。
- ✓ 福井県経済圏Dの消費支出に占める飲食費の割合(エンゲル係数)は、全国平均水準であり、沿線大都市の京都市、大阪市よりも低い水準である。
- ✓ 一方で、福井県経済圏Dの平均貯蓄率は、全国平均を下回る水準であり、沿線大都市の京都市、大阪市よりも低くなっている。

● 家計支出の大項目別にみる地域比較

- ✓ では、福井経済圏Dにおいて、どの支出項目が高いかを家計支出の大項目別に整理すると、仕送り等を含む移転支出や、教育関係費、情報通信関係の支出が大都市よりも高い。
- ✓ 加えて、福井経済圏Dは、大都市と比較して持ち家率が高く、住宅や土地に関わる負債割合が大きい傾向にあることがわかる。

(2) 1ヶ月あたり家計支出額に基づく消費行動指標

◆1ヶ月あたり家計支出額に基づく消費行動指標

	平均消費性向 (%)	エンゲル係 数(%)	貯蓄純増 (平均貯蓄率)(%)
全国	74.2	22.2	17.0
福井県経済圏D	77.2	22.4	7.1
京都市	76.2	26.8	9.0
大阪市	83.0	24.9	7.5

※福井県経済圏D: 敦賀市・小浜市・美浜町・高浜町・あおい町・若狭町
(出典)総務省「平成26年全国消費実態調査」

◆家計支出の大項目別にみる地域比較

		福井県経済圏D	京都市	大阪市
移転支出	(千円)	16,682	7,912	3,880
教育関係費	(千円)	31,165	26,941	22,247
教養娯楽関係費	(千円)	26,560	31,159	31,938
情報通信関係費	(千円)	23,714	19,454	19,813
経常消費支出	(千円)	211,430	226,701	220,912

負債現在高	(千円)	11,768	8,116	6,321
うち住宅・土地のための負債	(千円)	7,819	7,676	6,002
負債保有率	(%)	61.1	56.3	46.4
うち住宅・土地のための負債	(%)	53.7	46	35.2
持ち家率(現住居)	(%)	87.8	79.1	63.5
家賃・地代を支払っている世帯の割合	(%)	17	21	36

※福井県経済圏D: 敦賀市・小浜市・美浜町・高浜町・あおい町・若狭町
(出典)総務省「平成26年全国消費実態調査」

生活コストー居住 その1

● 1住宅当たり延べ床面積(㎡)

✓ 小浜市における住宅の延べ床面積は平均で約130㎡となり、全国平均を上回る水準であり、沿線大都市の京都市の1.7倍、大阪市の2.0倍の大きさ。

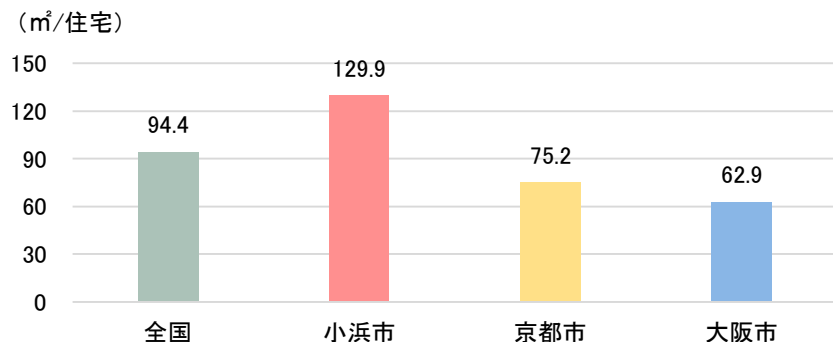
● 持ち家割合

✓ 小浜市における持ち家比率は、76.2%と高く、全国平均を上回り、沿線大都市の京都市の1.5倍、大阪市の1.8倍と高い水準。

(3) 1住宅当たり延べ床面積(㎡)

	1住宅当たり延べ床面積 (㎡/住宅)
全国	94.42
小浜市	129.88
京都市	75.19
大阪市	62.92

(出典)総務省「平成25年住宅・土地統計調査」

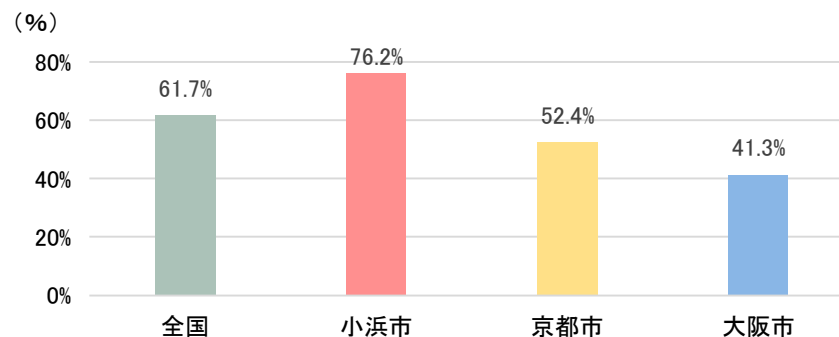


(出典)総務省「平成25年住宅・土地統計調査」

(4) 持ち家割合

	持ち家割合 (%)	居住世帯あり 住宅数	持家数
全国	61.7%	52,102,200	32,165,800
小浜市	76.2%	10,890	8,300
京都市	52.4%	692,790	362,910
大阪市	41.3%	1,343,170	554,700

(出典)総務省「平成25年住宅・土地統計調査」



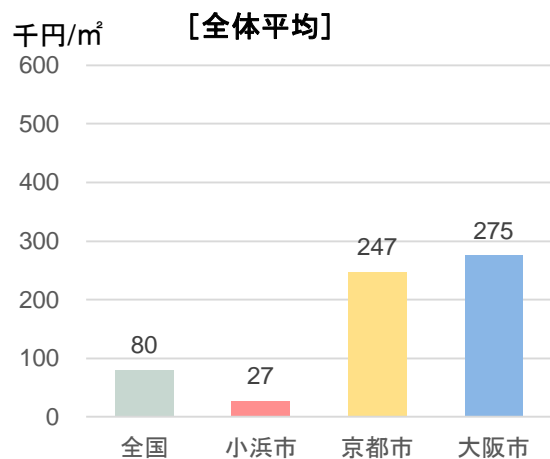
(出典)総務省「平成25年住宅・土地統計調査」

生活コストー居住 その2

● 不動産取引価格(宅地)

・宅地の不動産取引価格について、小浜市は、全国平均の3分の1の価格であり、沿線大都市の京都市、大阪市と比較すると、約10分の1程度と非常に安価。

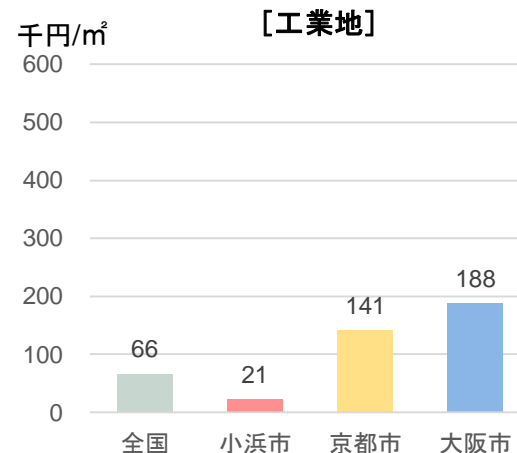
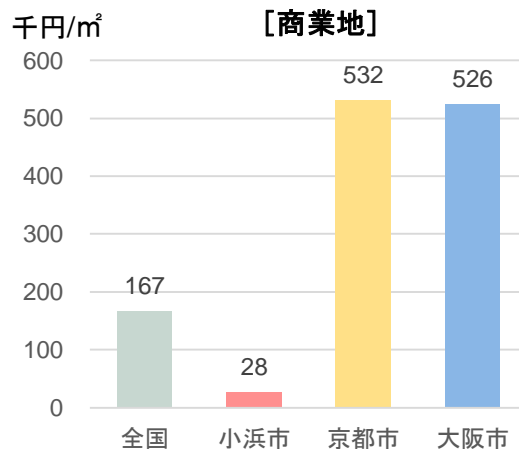
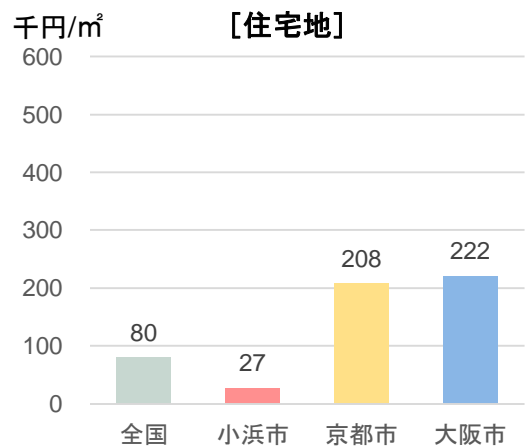
(5) 不動産取引価格(宅地)



■ 過去五年間の平均: H25暦年(2013年)～H29暦年(2017年)

	(円/m ²)	全国	小浜市	京都市	大阪市
宅地 (土地)	【全体平均】	79,648	26,896	246,851	275,150
	【住宅地】	79,614	27,149	208,161	221,502
	【商業地】	167,377	27,563	531,747	525,740
	【工業地】	66,146	21,264	140,757	187,976

(出典) 国土交通省「不動産取引価格情報」より作成



生活コストー生活・娯楽

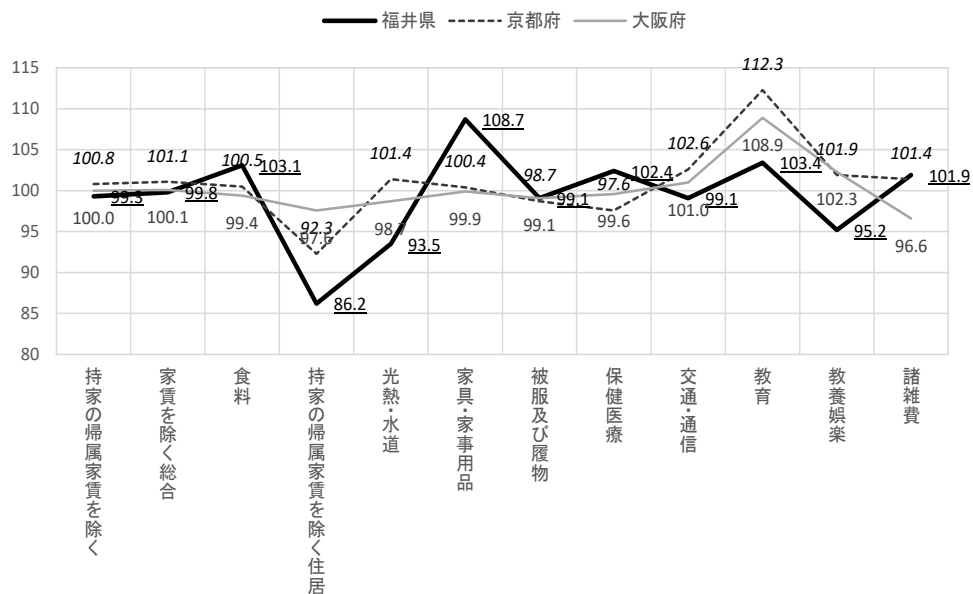
● 物価水準(消費者物価地域指数)

- ✓ 福井県の総合的な物価水準(持ち家の帰属家賃を含む総合指数、家賃を除く総合指数)は、京都府や大阪府など周辺の大都市圏を含む地域よりも低くかつ全国平均よりも低い。
- ✓ 項目別に着目すると、福井県の住居、光熱・水道、教養娯楽の物価水準は低いが、家具・家事用品、保健医療は、沿線大都市を含む京都府や大阪府および全国平均よりも物価が高い。

● 人口1人当たり病院数・医師数

- ✓ 医療面に関して、小浜市の人口1万人あたりの病院数、医師数は、全国平均を下回り、沿線大都市の京都市、大阪市よりも低い水準。

(6) 物価水準(消費者物価地域指数)

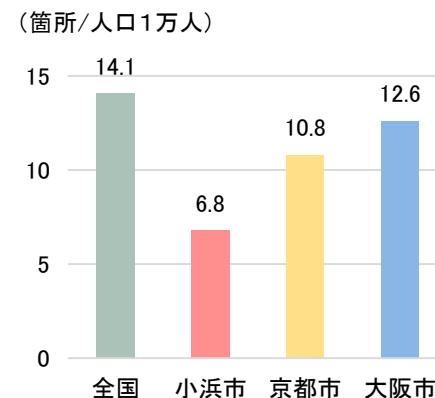


(7) 人口1人当たり病院数・医師数

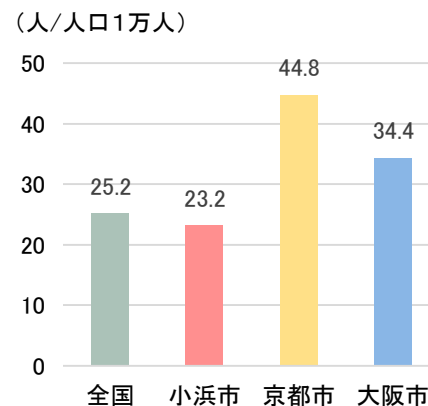
	病院数 (箇所/人口1万人)	医師数 (人/人口1万人)
全国	14.1	25.2
小浜市	6.8	23.2
京都市	10.8	44.8
大阪市	12.6	34.4

(出典)厚生労働省「平成28年医療施設(動態)調査」

◆人口1人当たり病院数



◆人口1人万人あたり医師数



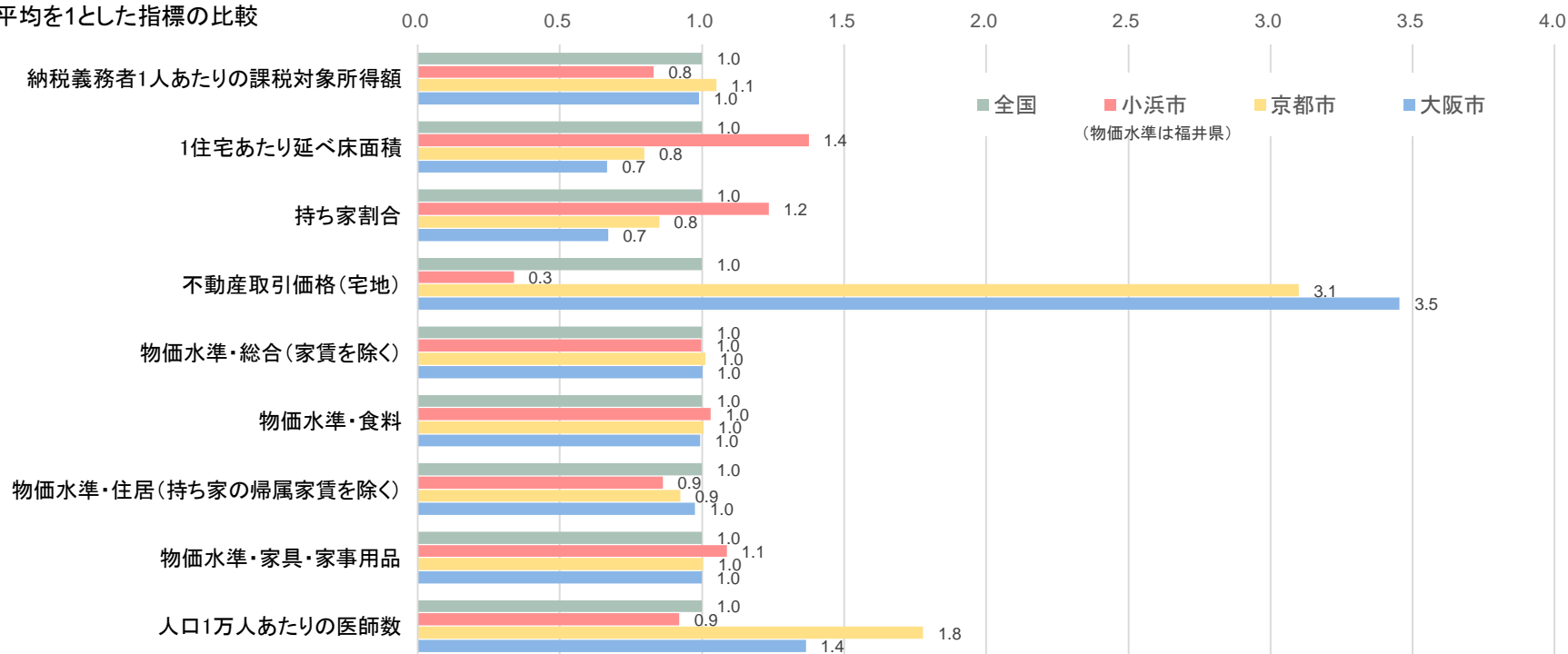
世帯収入・生活コストの比較まとめ

・世帯収入および生活コストについて、全国平均や沿線大都市との比較において、小浜市が訴求力を有する強みと、劣勢にある弱みについて、以下にまとめます。

世帯収入・生活コストの比較による小浜市の強み・弱み まとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅の面積が広い(全国平均の1.4倍、京都市の1.7倍、大阪市の2倍の大きさ) ・持ち家率が高い(全国平均の1.2倍、京都市の1.5倍、大阪市の1.8倍の持ち家率の高さ) ・不動産取引価格が安価(全国平均の3分の1の価格、京都市や大阪市の約10分の1程度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小浜市の納税義務者1人あたりの課税対象所得額は、全国平均や近隣の大都市(京都市、大阪市)と比較して、2割程度低い水準。 ・家具家事用品(家庭用耐久財、家事用消耗品)の物価が割高。(全国都道府県で最も高い。) ・人口あたりの病院数など医療面における充実度合いが大都市に劣る。(全国平均を1割程度下回り、京都市の半数、大阪市の7割程度)

■ 全国平均を1とした指標の比較



(参考)収入、所得に関するその他指標

区分		着目データ・指標等	データ・情報の出典等
収入	所得	(参考1) 1世帯当たり実収入、可処分所得	<ul style="list-style-type: none"> ・県内経済圏別の1世帯当たり1ヶ月間の収入。 ・総務省「平成26年全国消費実態調査(地域編)」 ※県内経済圏・福井県の場合:福井・坂井、丹南、奥越、嶺南)の指標。
		(参考2) 推計年収階級別世帯数より算出	<ul style="list-style-type: none"> ・年収階級別の世帯数と年収階級の中央値等を用いて地域毎の年収の平均値等を算出する。 ・国土交通省「住宅・土地統計調査」をもとに加工

● 1世帯当たり実収入、可処分所得

- ✓ 小浜市を含む福井県経済圏Dの1世帯あたりの実収入および可処分所得額は、全国平均を大きく上回っており、沿線大都市(京都市、大阪市)よりも大きい。

● 推計年収階級別世帯数より算出

- ✓ 住宅・土地統計調査の被験者の属性データに基づく、平均年収は、全国平均とほぼ同水準であり、沿線大都市(京都市、大阪市)よりも大きい。

(参考1)1世帯当たり実収入、可処分所得

	実収入 (円/1世帯・月)	可処分所得 (円/1世帯・月)
全国	300,754	247,080
福井県経済圏D	488,225	402,780
京都市	458,620	384,953
大阪市	407,464	346,678

※福井県経済圏D:敦賀市・小浜市・美浜町・高浜町・あおい町・若狭町
(出典):総務省「平成26年全国消費実態調査」

(参考2)1世帯当たり実収入、可処分所得

	平均年収値 (万円/年)
全国	451
小浜市	453
京都市	395
大阪市	374

(出典) 総務省「平成25年住宅・土地統計調査」をもとに平均年収を試算。

(1) 可能性検討

1) 移住・定住の促進

(ウ) 移住定住意向調査

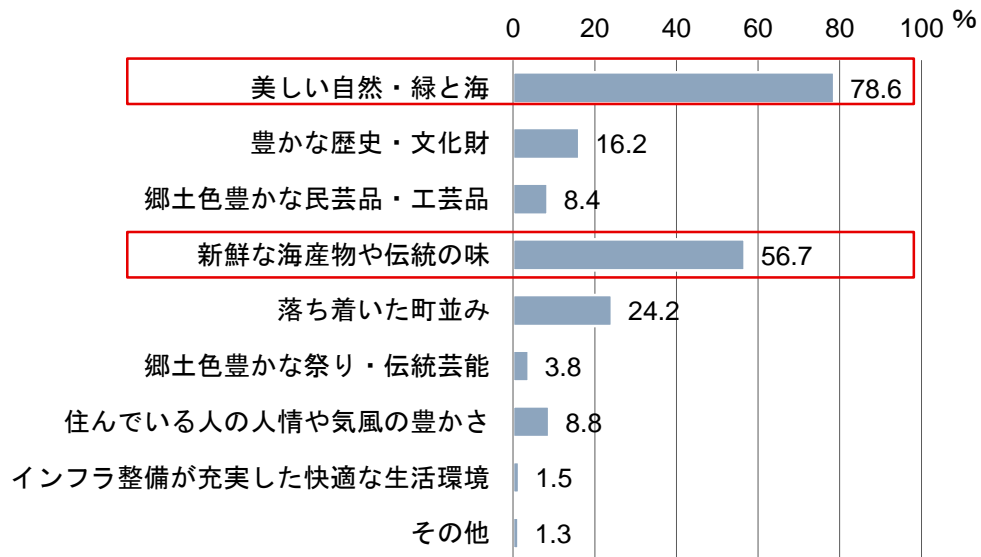
- ・インターネットアンケート調査

(移住定住面に関する設問を含む調査結果)

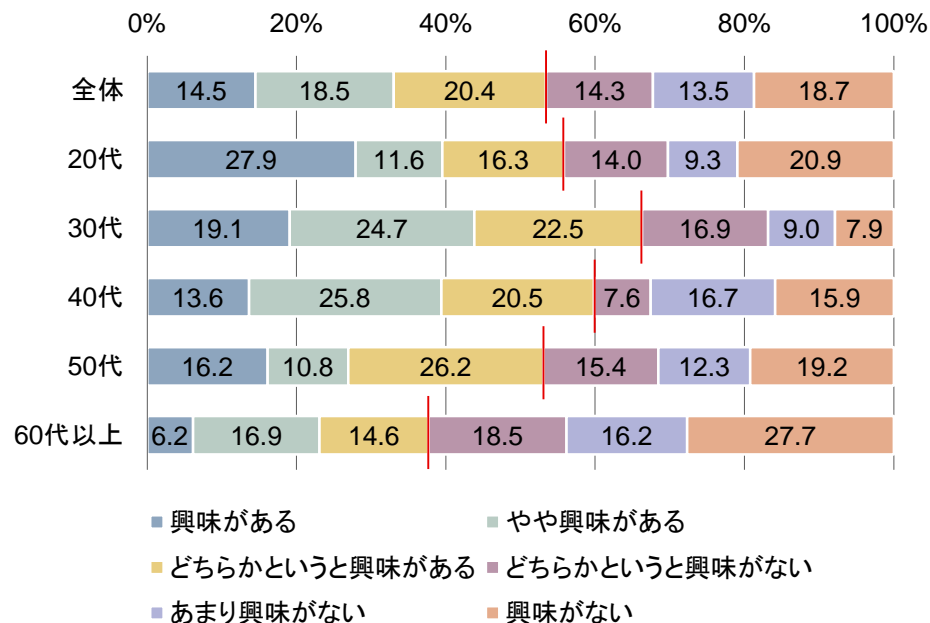
小浜の印象、地方への移住・2地域居住への興味

- ✓ 小浜の印象は「美しい自然・緑と海」が最も高く78.6%を占め、「新鮮な海産物や伝統の味」の値も高い。
- ✓ 地方への移住・2地域居住への関心は、30代が最も関心を示している。

小浜の印象



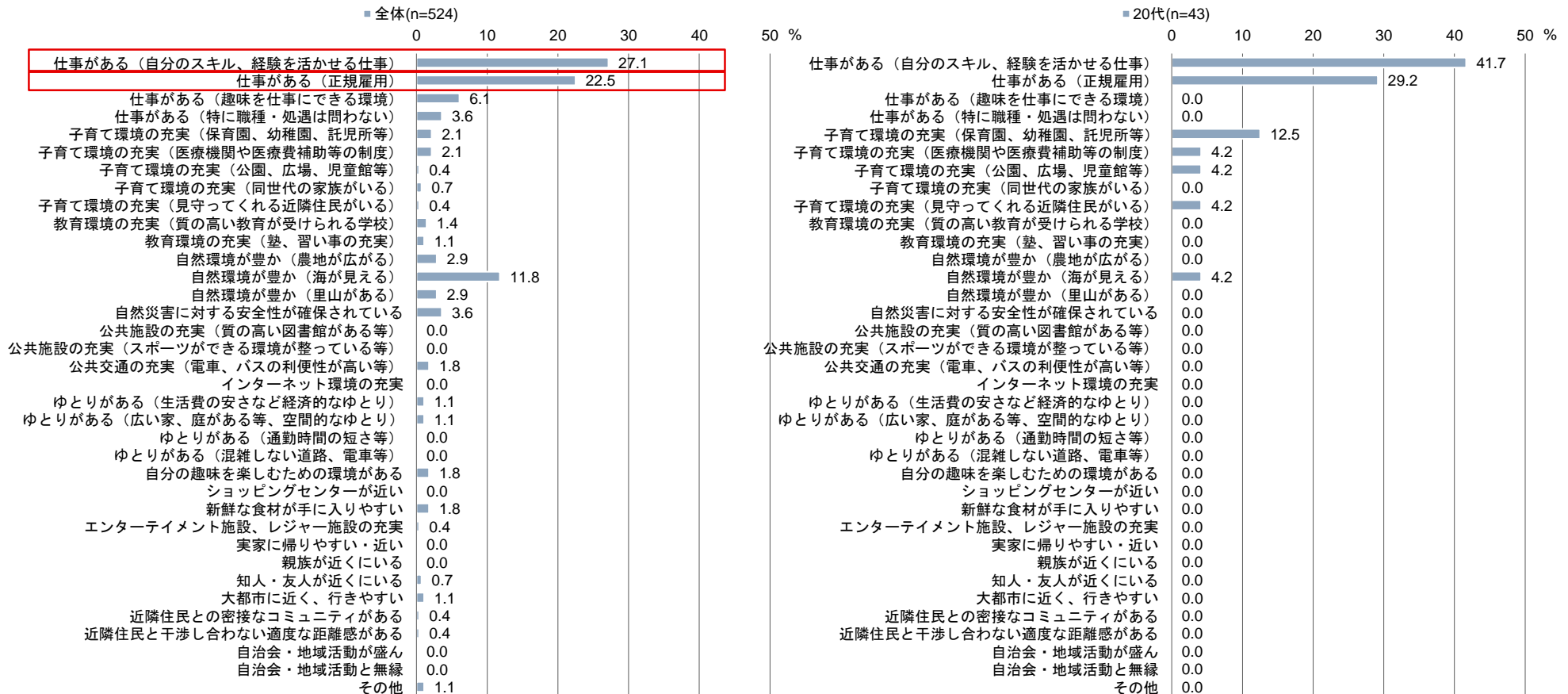
地方への移住・2地域居住



居住地を決める際、重視する項目

- ✓ 全体では、「仕事がある(自分のスキル、経験を活かせる仕事)」が最も高く、「仕事がある(正規雇用)」も比較的高い値を示す。
- ✓ 20代では、その傾向が顕著に表れる。

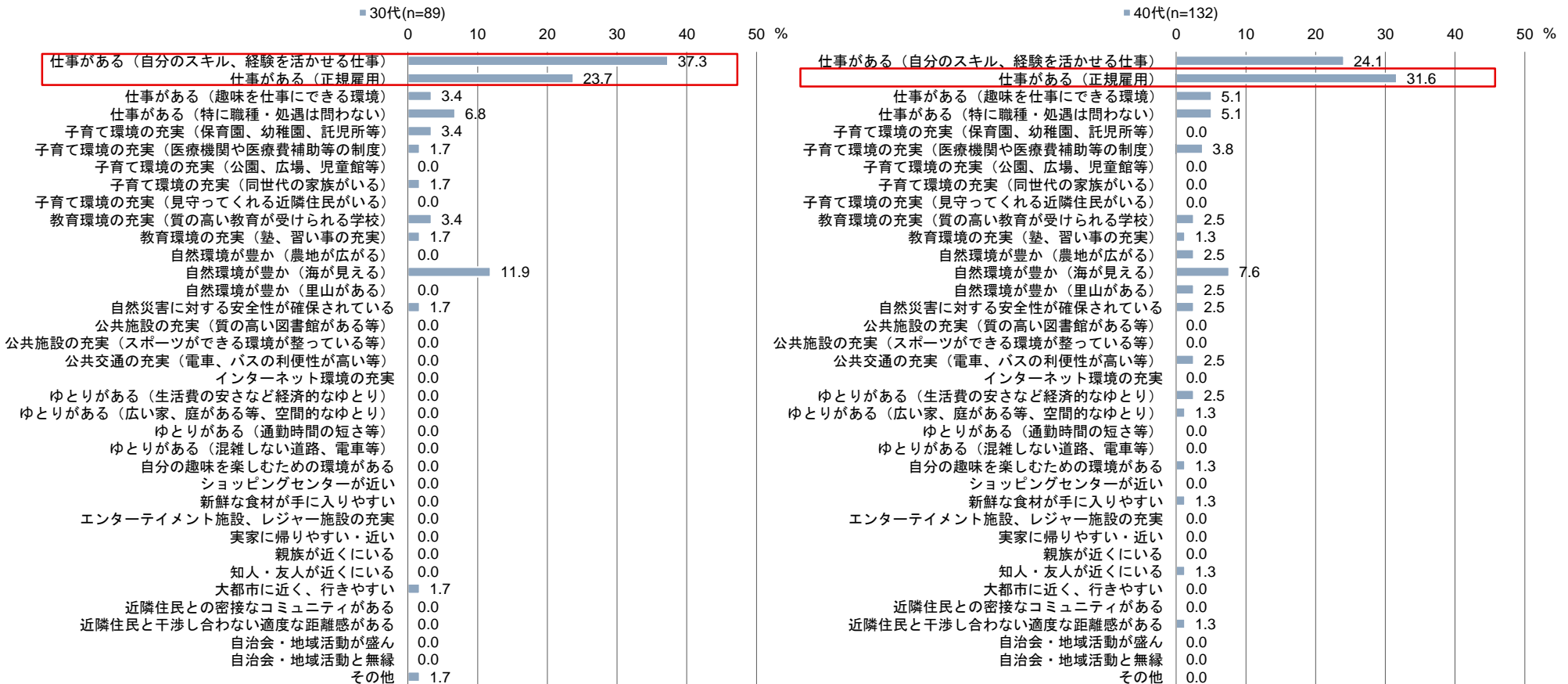
居住地を決める際、重視する項目(1位のみ) 1/3



居住地を決める際、重視する項目

✓ 30代は全体傾向と類似、40代は「仕事がある(正規雇用)」の値が最も高い。

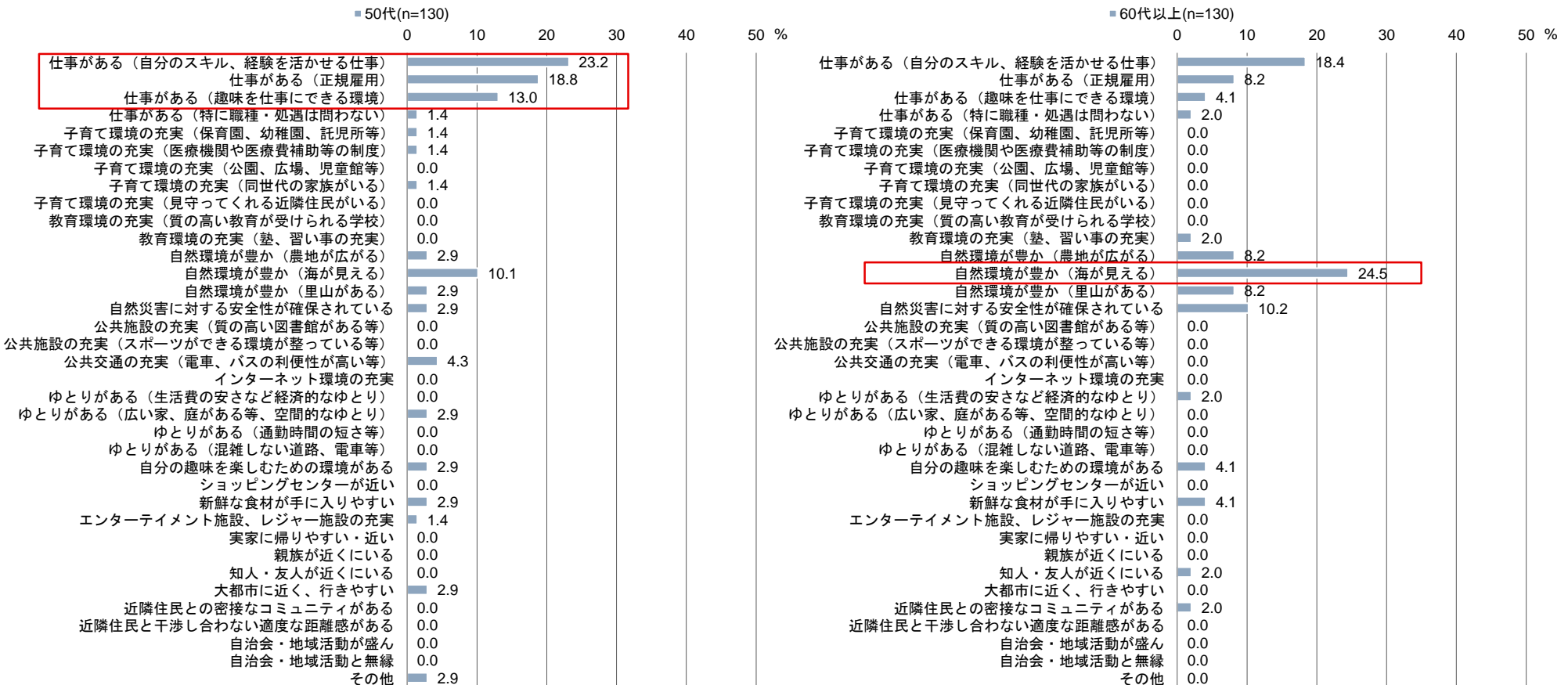
居住地を決める際、重視する項目(1位のみ) 2/3



居住地を決める際、重視する項目

✓ 50代は仕事に関する項目が重視される一方、60代は自然環境の豊かさが重視され、特に「自然環境が豊か(海が見える)」が最も高い値を示している。

居住地を決める際、重視する項目(1位のみ) 3/3



居住地を決める際、重視する項目

✓ 男女別にみると、傾向に大きな変化はなく、「仕事がある(自分のスキル、経験を活かせる仕事)」、「仕事がある(正規雇用)」、「自然環境が豊か(海が見える)」が高い値を示す。

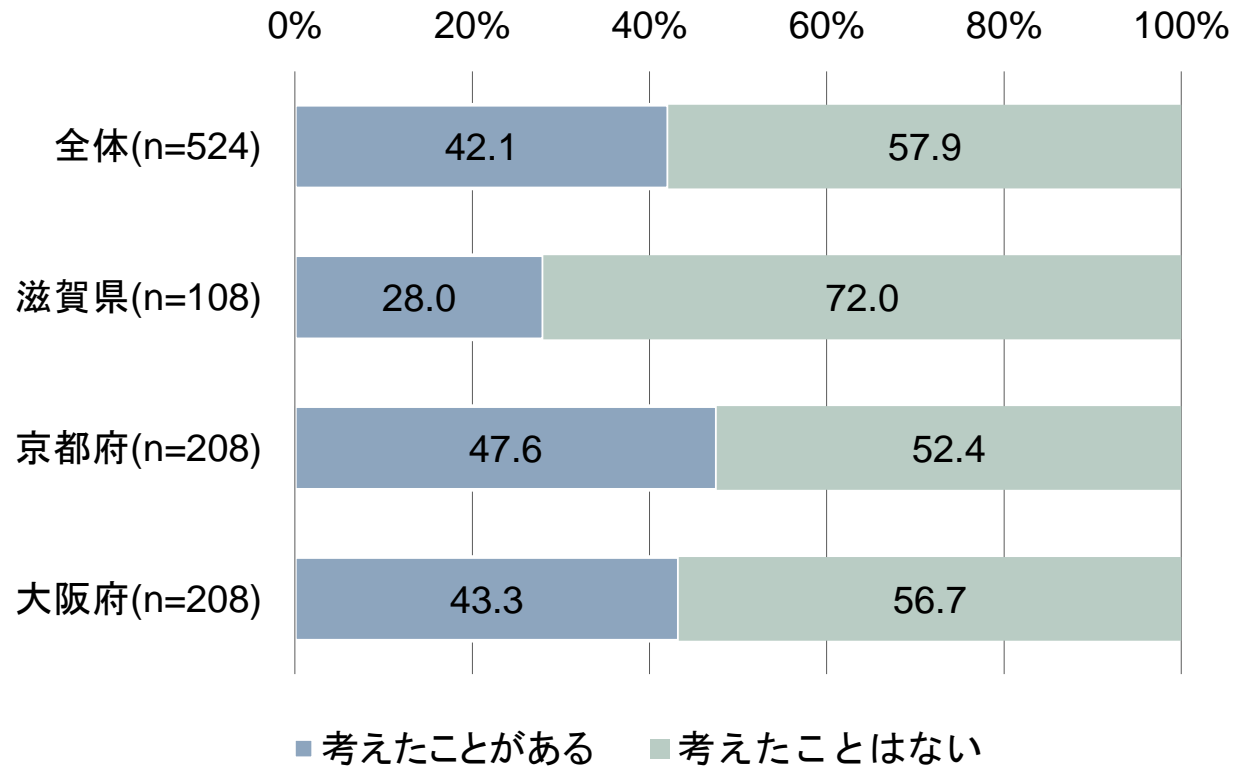
居住地を決める際、重視する項目(1位のみ・性別)



移住・2地域居住の候補として小浜市の位置づけ

- ✓ 全体では「考えた事がある」が42.1%を示す。
- ✓ 3府県の中では、京都府の値が最も高く47.6%を示す。

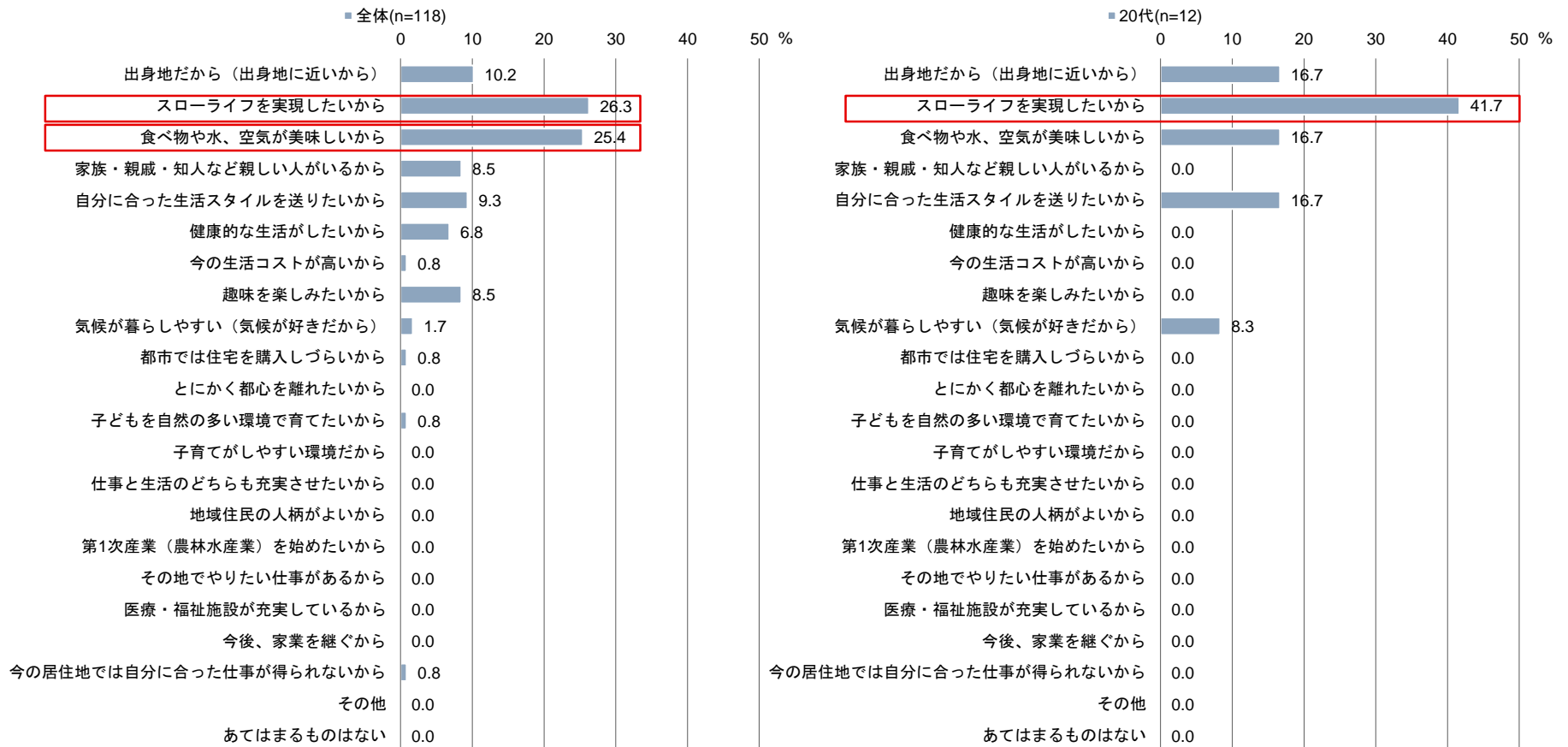
移住、2地域居住の候補先としての小浜市の位置づけ



移住・2地域居住の候補先として考えた理由

- ✓ 全体では、「スローライフを実現したいから」が最も高く、26.3%を示し、次いで「食べ物や水、空気が美味しいから」(25.4%)が続く。
- ✓ 20代では、「スローライフを実現したいから」が顕著である。

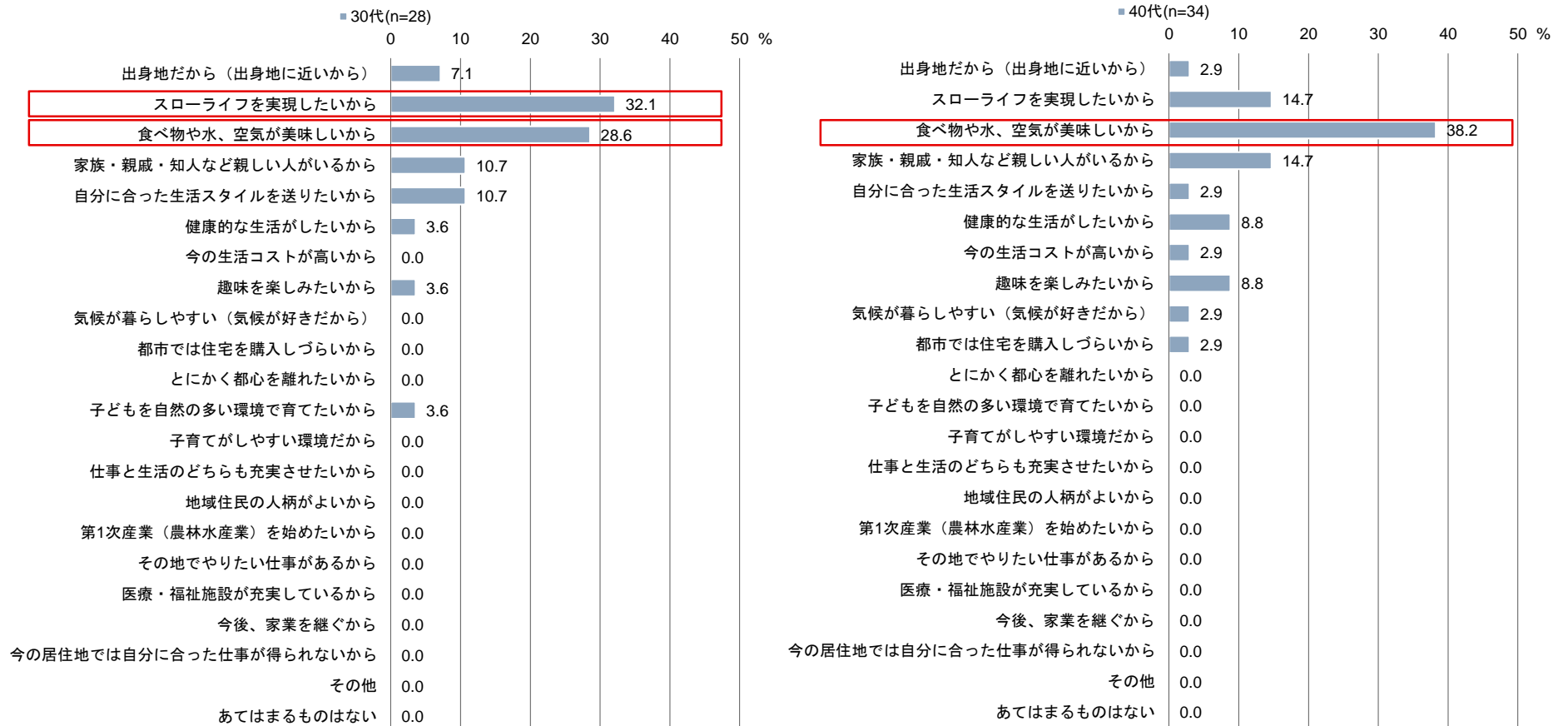
移住、2地域居住の候補先として考えた理由(1位のみ) 1/4



移住・2地域居住の候補先として考えた理由

✓ 30代は全体と類似傾向、40代は「食べ物や水、空気が美味しいから」が顕著。

2地域居住の候補先として考えた理由(1位のみ) 2/4



移住・2地域居住の候補先として考えた理由

- ✓ 50代は「出身地だから(出身地に近いから)」の比率が高まり、Uターン試行が顕著になる。
- ✓ 60代は、「食べ物や水、空気が美味しいから」に加え、「趣味を楽しみたいから」の値が31.3%で最も高い値を示す。

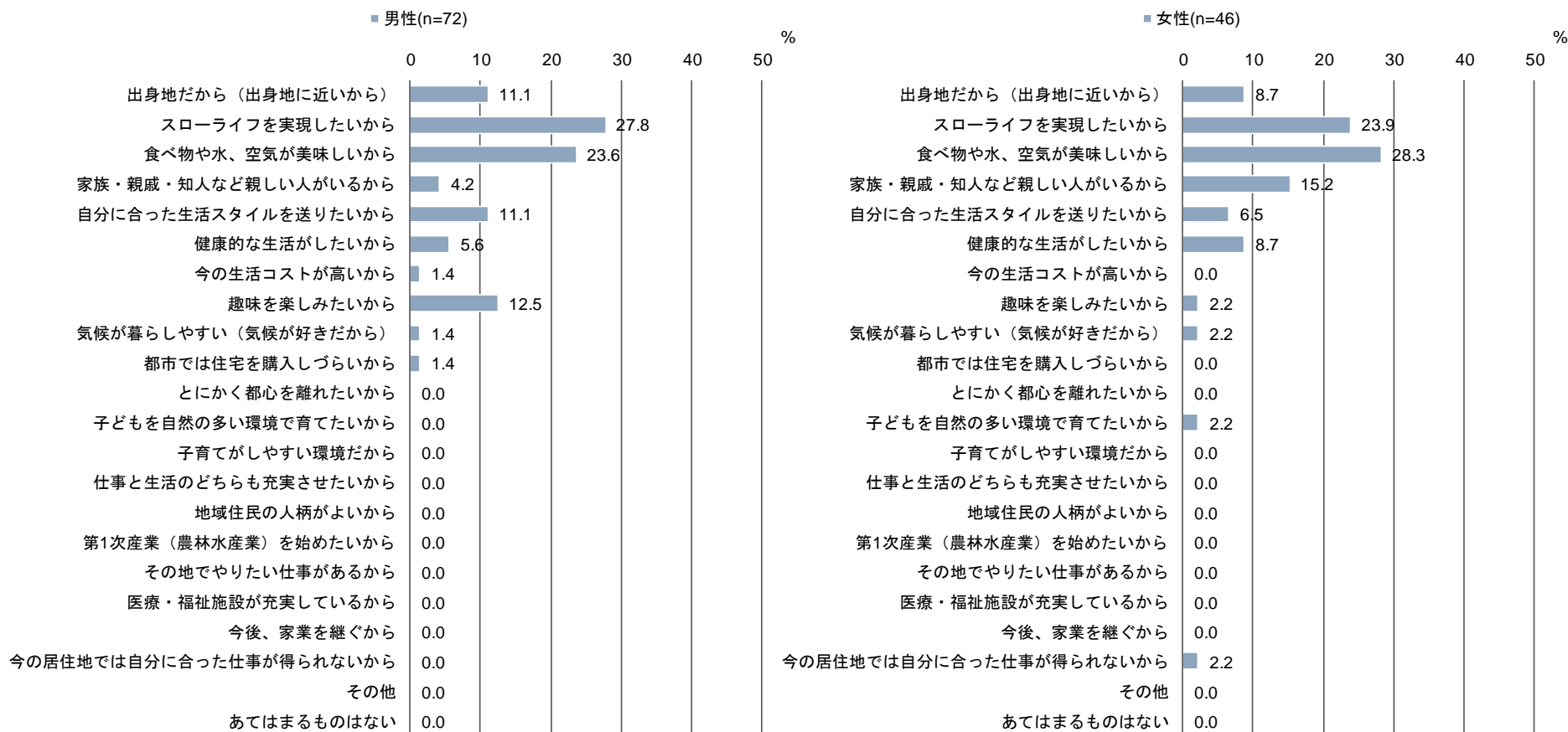
2地域居住の候補先として考えた理由(1位のみ) 3/4



移住・2地域居住の候補先として考えた理由

- ✓ 男女別で比較しても、「スローライフの実現したいから」、「食べ物や水、空気が美味しいから」が上位に挙げられる。
- ✓ 性比での差としては、女性では「家族・親戚・知人など親しい人がいるから」を挙げる傾向が高く、男性では「趣味を楽しみたいから」を挙げる傾向が高い。

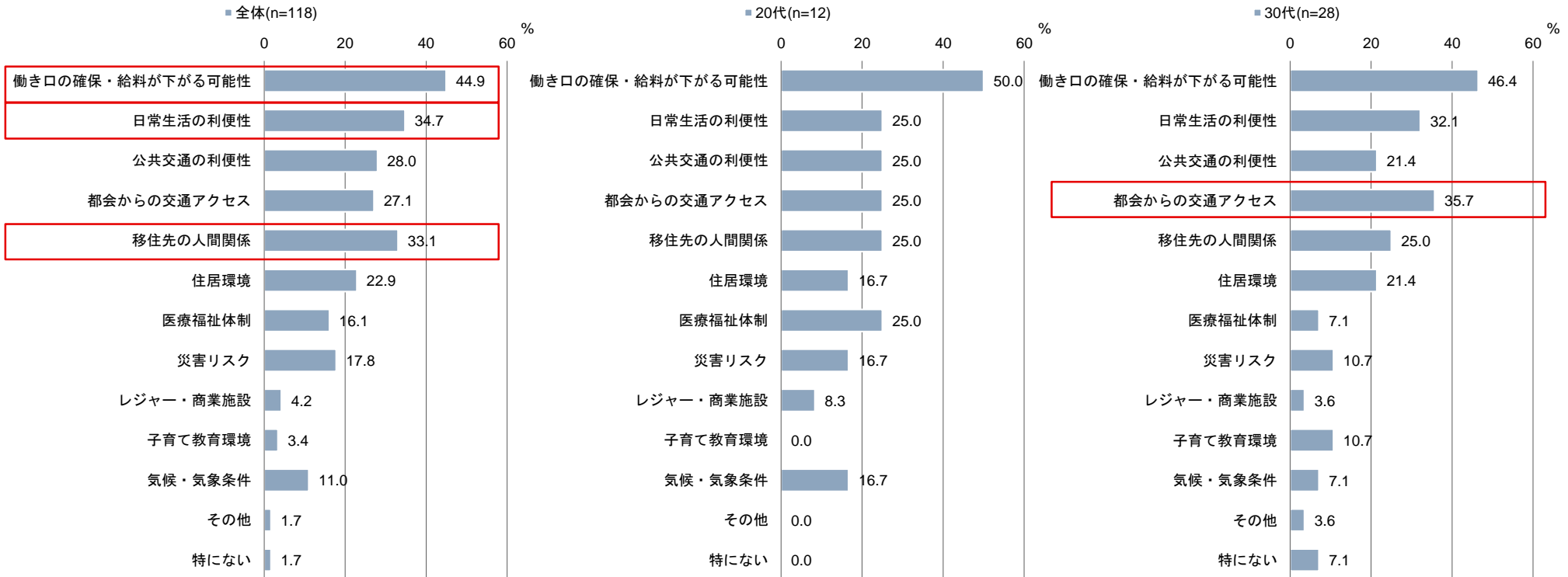
移住、2地域居住の候補先とした理由(1位のみ・性別) 4/4



移住・2地域居住に対する不安

- ✓ 全体では、「働き口の確保・給料が下がる可能性」が最も高く44.9%を示し、「日常生活の利便性」、「移住先の人間関係」と続く。
- ✓ 30代では、「都会からの交通アクセス」の値も比較的高い。

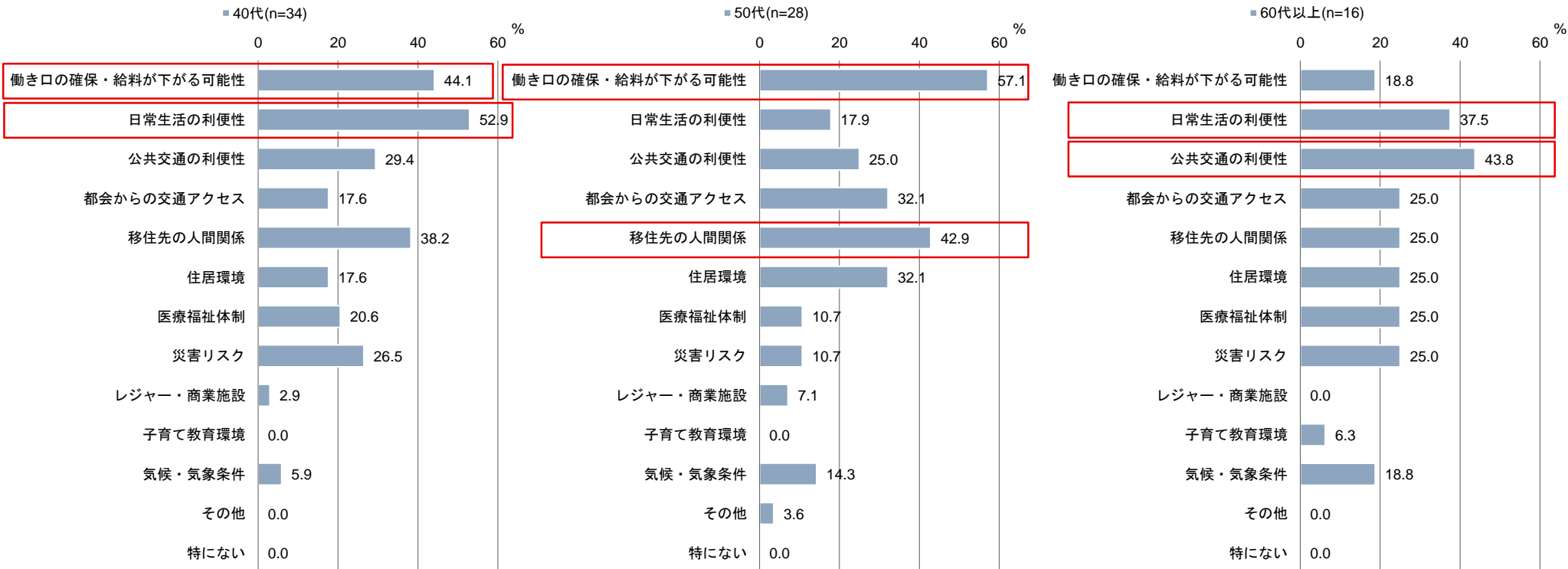
移住、2地域居住に関する不安（年齢別）1/2



移住・2地域居住に対する不安

- ✓ 全体との傾向の違いとしては、40代では「日常生活の利便性」、50代では「移住先の人間関係」が比較高い。
- ✓ 60代以上は、リタイア後となるため、「働き口の確保」の値は低く、「公共交通の利便性」、「日常生活の利便性」等、老後の生活に関連する項目の比率が高まる。

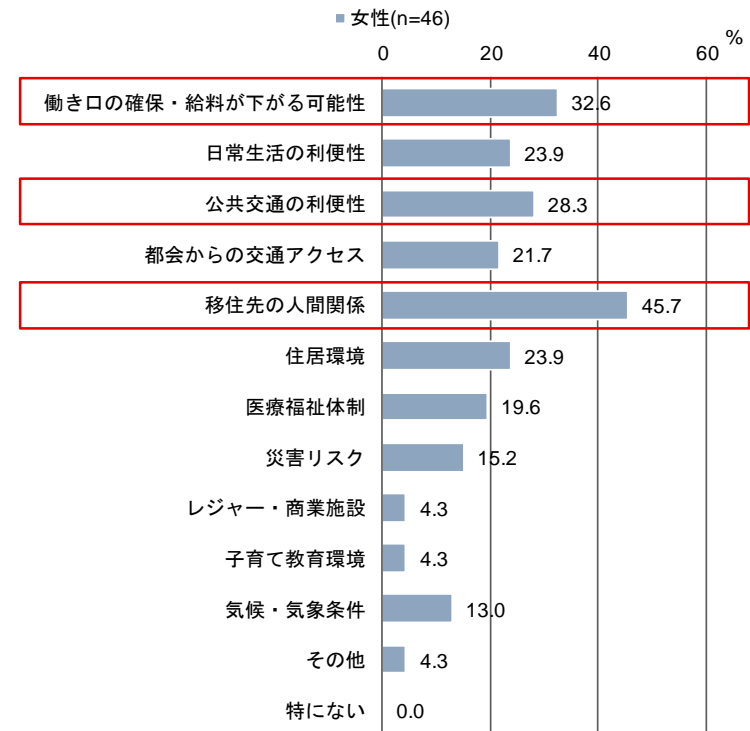
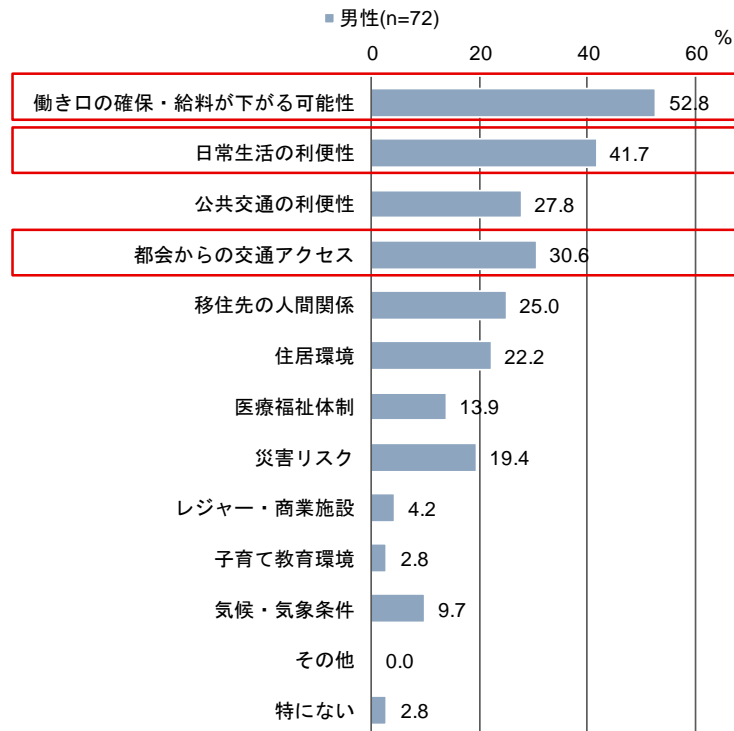
移住、2地域居住に関する不安(年齢別) 2/2



移住・2地域居住に対する不安

- ✓ 男性は「働き口の確保・給料が下がる可能性」が最も高く、「日常生活の利便性」、「都会からの交通アクセス」と続く。
- ✓ 女性は「移住先の人間関係」、「働き口の確保・給料が下がる可能性」、「公共交通の利便性」と続く。

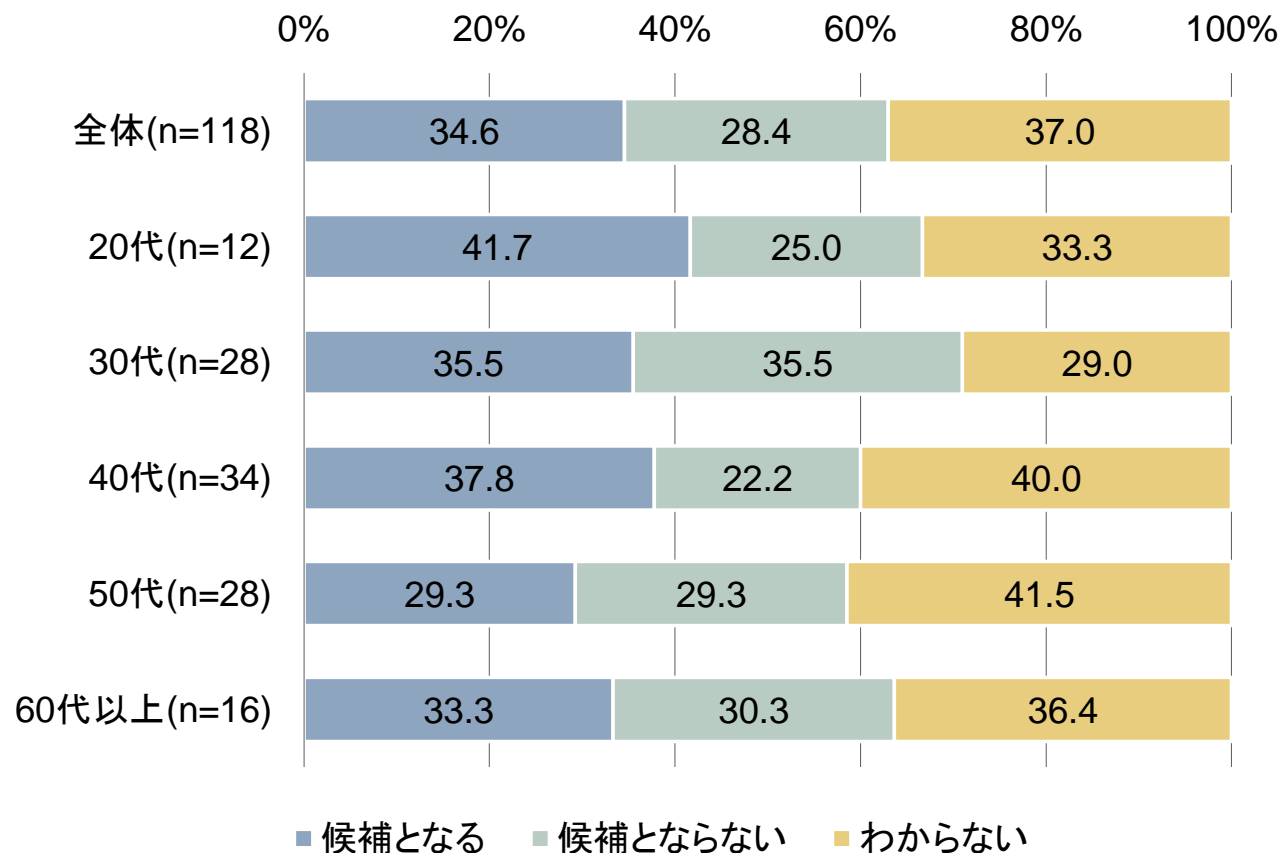
移住、2地域居住に関する不安(性別)



北陸新幹線開通後の移住先、2地域居住の候補としての小浜の位置づけ

- ✓ 全体では、「候補となる」が34.6%を示し、この値を上回るのが20代(41.7%)、30代(35.5%)、40代(37.8%)の若者～子育て世代となっている。
- ✓ いずれの層も、「候補となる」が「候補とならない」に比べて値が大きいか、同値である。

北陸新幹線開通後の移住先、2地域居住の候補



リピーター層の小浜への移住・2地域居住に対する意向

※本案ケート調査におけるリピーター・・・5年以内2回以上来訪

- ✓ イメージは「美しい自然・緑と海」、「新鮮な海産物や伝統の味」に特化
- ✓ 「仕事がある(自分のスキル、経験を活かせる仕事)」、「仕事がある(正規雇用)」が必要条件。高齢者層には、自然環境を求める傾向。
 - ⇒若年層は、職があることが必要。正規雇用で働ける環境づくりが必要。
- ✓ 「京都府」、「大阪府」で5割弱が移住・2地域居住の候補として考えたことがある。
 - ⇒比較的都市部の住民を、自然豊かな小浜をターゲットとしていく。
- ✓ 「スローライフの実現」、「食べ物や水、空気が美味しいから」、「趣味を楽しみたいから」が理由となる。
 - ⇒観光訪問で気に入ってもらい、定住に繋げる。
- ✓ 不安要素は、「働き口の確保・給料が下がる可能性」、「日常生活の利便性」、「移住先の人間関係」、「都会からの交通アクセス」、「公共交通の利便性」など。
 - ⇒新幹線開業を契機として、職の充実と、都会からの近接性を実現。公共交通の利便性、日常の利便性等、生活環境の充実も併せて実施していく。